

文部科学大臣認定

「スクーバ・ダイビング指導者審査事業」

平成 1 8 年度

C 級指導員
指導者資格認定講習会のご案内
(共通科目講習会)



スクーバ・ダイビング指導者審査事業実行委員会

C級（共通科目）

1. 事業の目的とその資格

この事業は、スクーバ・ダイビング指導者の資質向上のために、主として地域においてスクーバ・ダイビングの実践的指導に当たっている指導者、ならびにこれから指導者になろうとするものを対象に、必要な知識と技能の習得を目的に実施するものです。

また、その資格は文部科学省の「社会体育指導者の知識・技能審査事業の認定に関する規定」(昭和62年・同省告示第5号)にもとづく文部科学大臣の認定(平成2年5月・同省告示第69号)を受けた事業として行うものです。

2. 主催（事業主体）

上記によるスクーバ・ダイビング指導者の審査事業は、財団法人社会スポーツセンターが事業主体となり、当財団のスクーバ・ダイビング指導者審査事業実行委員会（8頁参照、以下「実行委員会」という）によって運営します。

3. 講習期間と会場

	講習期間	会場
	平成19年1月19日（金） ～ 21日（日） 期間短縮コース（3日間）	多摩スポーツセンター 東京都多摩市東寺方647 042 - 375 - 3371

期間短縮コース講習会へ参加するには、各潜水指導団体主催の特別講習を修了しなければなりませんので、所属される指導団体および当センターへお問い合わせください。

4. 募集定員

各回とも80名（先着順で定員になり次第締め切ります）

5. 講習内容（カリキュラムは別表：6・7頁参照）

（1）共通科目	45時間（集合34＋通信11）	
（2）専門科目	84時間	合計129時間

スクーバ・ダイビングの特性と基礎理論（ ）	9 時間
スクーバ・ダイビングの特性と基礎理論（ ）	3 4 時間
実技	1 8 時間
指導実習	2 3 時間

但し、今期は民間潜水指導団体のインストラクター・トレーニング・コース（ＩＴＣ）を受講・修了し、インストラクターとしての指導実績を有する者、および専門学校において指導者教育を受け専門学校卒業時に指導員資格を有する者を対象としますので、この場合、上記（２）専門科目中の 、 、 の講習は免除することとします。（実技試験は行います。）

6.受講資格

受講を開始する年の４月１日現在、満２０歳以上の者で、上記５の但し書きの資格を有し、審査事業実行委員会が認めた者。

（財）日本体育協会公認スポーツ指導員の資格を持っている者は共通科目を免除します。（資格を証明できる認定証等のコピーが必要）

また、日本体育協会の共通科目免除が認められた体育系の大学および専門学校卒業者に対しては共通科目および専門科目の一部免除措置があります。（大学または専門学校の発行する単位履修証明書が必要）

7.受講申込・申込期限

（１） 所定の受講申込書に、必要事項を記入のうえ、（財）社会スポーツセンター事務局まで簡易書留にて郵送して下さい。

（２） 申込期限（当日消印有効）

平成１９年 １月１２日（金）まで

8.受講者の決定

申込書類を審査のうえ受講者を決定し、直接本人宛に受講者決定を通知します。

9.受講費用

受講料 63,000円（消費税込）

審査料 21,000円（消費税込）

登録料 10,500円（消費税込）

その他、交通費、宿泊費は参加者の自己負担（別精算）とします。

詳細につきましては、別紙をご参照ください。

10.検定試験および審査

講習にもとづく検定試験は、講習修了者を対象として検定試験要綱にもとづき、共通科目と専門科目（技能を含む）を実施します。

（１）試験日時および会場

原則として、各回講習会時および講習会場において実施します。

（２）検定試験の方法

共通科目および専門科目中の「スクーバ・ダイビングの特性と基礎理論（ ）」における検定試験は、筆記試験により実施します。

また、共通科目のうち一部通信教育を含めますが、この試験はレポートによって行います。

（３）技能テストの概要と実施方法

テスト項目	実施方法および認定基準
水泳能力	クロールで８００Ｍをゆっくりでよいから途中で立ち止まらずに連続して泳ぐ。
フィン泳力	フィン、マスク、スノーケルを使用して４００Ｍを７分以内で泳ぐ。但し、３０歳以上では８分以内、４０歳以上では９分以内で可とする。
スノーケリング能力	フィン、マスク、スノーケルを使用して水平に４０Ｍを息こらえで潜る。
スクーバ・ダイビング能力	背の立つプールで要点の説明を加えながら水中脱着のデモンストレーションを行う。制限時間５分以内（説明２分以内、実技３分以内）。円滑に行われて実技の失敗がなければ合格とする。

（４）検定試験に関する審査

審査業務は、まず各講習科目担当講師によって採点作業が行われます。その採点結果をふまえて実行委員会によって任命された検定試験委員（学識経験者）と事務局で審査業務を行い、合格者を認定します。

合格者の発表、通知については各潜水指導団体ならびに各個人宛に行います。

11.「認定証」の交付と登録の実施等

上記検定試験合格者は、(財)社会スポーツセンターに指導者登録を行うことによって、文部科学大臣認定事業による「スクーバ・ダイビングC級スポーツ指導員」の資格が付与され、「認定証」および「登録証」が交付されます。

登録による資格の有効期限は３年間とします。資格更新は資格有効期限内に有効期間中の活動実績を提出するとともに、(財)社会スポーツセンターの実施する研修を受けることとします。

講習会講師（共通科目）

順不同・敬称略

佐伯年詩雄	（元筑波大学体育科学系教授・スポーツ社会学）
川西正志	（鹿屋体育大学教授・スポーツ社会学）
赤松喜久	（大阪教育大学助教授・スポーツ社会学）
長田一臣	（日本体育大学名誉教授・スポーツ心理学）
高島稔	（元東京女子体育大学教授・スポーツ経営学）
八代勉	（東亜大学教授・スポーツ経営学）
木村和彦	（早稲田大学助教授・スポーツ経営学）
山下秋二	（京都教育大学教授・スポーツ経営学）
堀居昭	（日本体育大学教授・運動生理学）
中島寛之	（東京大学教授・スポーツ医学）
横江清司	（財・スポーツ医・科学研究所診療部長・スポーツ医学）
片山直樹	（東京厚生年金病院整形外科部長・スポーツ医学）
石川知志	（元東京厚生年金病院整形外科・スポーツ医学）
河合祥雄	（順天堂大学医学部循環器内科助教授・スポーツ医学）
高橋健夫	（筑波大学体育科学系教授・スポーツ指導論）
細江文利	（東京学芸大学教授・スポーツ指導論）
大内勝夫	（天理大学教授・スポーツ指導論）
早瀬健介	（文部科学省・生涯スポーツ課・スポーツ行政）
片岡曉夫	（国土舘大学教授・スポーツ哲学）
井上大輔	（川口市立医療センター麻酔科・救急蘇生法）
行田泰明	（財・癌研究会付属病院麻酔科・救急蘇生法）
松本高明	（国土舘大学教授・救急蘇生法）
須賀田元彦	（日本大学医学部付属板橋病院麻酔科・救急蘇生法）
片山健二	（日本体育スポーツ経営学会常務理事・スポーツ経営学）

講習会講師（専門科目）

順不同・敬称略

酒井哲雄	（ 頌栄短期大学学長・海洋スポーツ ）
吉田章	（ 筑波大学体育科学系教授・水辺野外活動 ）
後藤與四之	（ 埼玉医科大学客員教授・潜水医学 ）
眞野喜洋	（ 東京医科歯科大学教授・潜水医学 ）
大岩弘典	（ 日本大学医学部客員教授・潜水医学 ）
野村武男	（ 筑波大学体育科学系教授・水中生理学 ）
小田敏彰	（ 日本体育大学教授・水泳運動学 ）
今野敏徳	（ 元東京海洋大学助教授・日本の海の自然環境 ）
小池康之	（ 元東京海洋大学助教授・水産関係諸法規 ）
竹内正一	（ 元東京海洋大学名誉教授・ダイバーのための海洋学 ）
有元貴文	（ 東京海洋大学教授・ダイバーのための海洋学 ）
山川紘	（ 東京海洋大学助教授・科学調査のための潜水 ）
小笠原彩子	（ 弁護士・インストラクターの事故問題 ）
関邦博	（ 神奈川大学教授・スクーバ・ダイビングの歴史と概要 ）
三宅玄造	（ 日本海洋技術専門学校講師・海事関係諸法規 ）
須賀次郎	（ 財・社会スポーツセンター顧問・潜水指導実習 ）
竜崎秀夫	（ 日本職業潜水教師協会理事長・潜水指導実習 ）
佐藤矩郎	（ 日本海中技術振興会会長・潜水指導実習 ）
市原隆久	（ セントラルスポーツダイビング協会会長・水泳指導実習 ）

C 級講習科目概要

【共通科目】

講 習 科 目	科 目 内 容	講習 時間	内 訳	
			集合	通信
1.スポーツ社会学	(1)社会体育の基礎理論(1)	5	4	1
2.スポーツ心理学	(1)運動意欲と動機づけ	2	2	
	(2)発達段階別心理的特徴	2	2	
3.スポーツ経営学	(1)スポーツ経営の意味と目的	2	2	
	(2)スポーツ事業の計画と運営	2	1	1
4.運動生理学	(1)身体運動の生理学的意義 (運動と筋・神経、運動と呼吸・循環機能)	7	4	3
	(2)体力向上の生理学的基礎	3	2	1
	(3)体力トレーニング論(1)	2	1	1
	(4)性、加齢と運動	1	1	
	(5)スポーツとバイオメカニクス	2	2	
	(6)動きの分析	1	1	
5.スポーツ医学	(1)スポーツと臨床医学的基礎	2	2	
	(2)スポーツ傷害とその処置	2	2	
	(3)救急処置の実際	1	1	
6.スポーツ指導論	(1)スポーツ指導の基礎	2	1	1
	(2)スポーツ指導の原則と指導形態	2	1	1
	(3)スポーツ指導の方法	2	1	1
	(4)インストラクターのあり方	1	1	
	(5)指導と安全	1	1	
7.スポーツ行政	(1)スポーツ行政の目標・領域	2	2	
8.スポーツ哲学	(1)スポーツをすることの意味	1		1
小 計		45	34	11

注(1) 共通・専門科目とも講習時間の単位時間は60分とします。

(2) 講習科目のうち、一部は通信教育を含めます。審査はレポートによって行います。

(3) 一部講習の内容、時間数に変更が生じる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

【専門科目】

講 習 科 目	科 目 内 容	講 習 時 間
1. スクーバ・ダイビング の特性と基礎理論()	(1) スクーバ・ダイビングの歴史と概要	1
	(2) インストラクターの役割	1
	(3) ダイバーのための海洋学	1
	(4) 日本の海の自然環境	1
	(5) 水産関係諸法規	1
	(6) 海事関係諸法規	1
	(7) 海洋関係諸法規	1
	(8) スクーバ・ダイビングの事故と安全対策	2
2. スクーバ・ダイビング の特性と基礎理論()	(1) 気象および海象観測	2
	(2) 各種連絡法、記号法、および結索法	3
	(3) 潜水器材、装備品の取り扱い	2
	(4) 水中環境、水中運動の特性	2
	(5) 潜水物理学	3
	(6) 潜水生理学	3
	(7) 潜水医学	3
	(8) 減圧症、再圧治療	3
	(9) 女性と潜水、指導法	3
	(10) 潜水と耳鼻科	2
	(11) 救急蘇生法	4
	(12) 海況判断、潜水計画および指導計画について	4
3. 実 技	(1) 水泳指導能力	3
	(2) スキン・ダイビング指導能力	3
	(3) フィン泳力指導能力	2
	(4) スクーバ・ダイビング指導能力	5
	(5) 救急蘇生法	3
	(6) 危機管理能力	2
4. 指 導 実 習	(1) 口述訓練、初心者講習	5
	(2) 個人、集団の指導および評価方法(ﾌﾟｰﾙ)	5
	(3) 個人、集団の指導および安全管理(ﾋﾞｰﾁ)	3
	(4) 個人、集団の指導および安全管理(ﾎｰﾄ)	2
	(5) ナイトダイビング(海洋)	2
	(6) ディープダイビング(海洋)	2
	(7) 海況判断、潜水計画および指導計画(立案、実施、評価)	4
小 計		84
共通・専門合計		129

<備考> 各潜水指導団体の採用している I T C (インストラクター・トレーニング・コース) の履修者は、上記
2、3、4の講習は免除します。

スクーバ・ダイビング指導者審査事業実行委員会

【潜水指導団体】

団体名/代表者	英文略称	住所/電話番号
国際ダイビングスクール協会 代表 岡 本 文 孝	ADS I.	〒 232-0006 横浜市南区南太田 2-7-11 045-712-2222
日本職業潜水教師協会 代表 竜 崎 秀 夫	JP I.	〒 105-0004 港区新橋 1-14-7 荒川ビル3階 03-3593-3901
全日本潜水連盟 代表 須 賀 次 郎	JUDF	〒 135-0007 東京都江東区新大橋 3-18-11 03-3635-3433
日本海中技術振興会 代表 佐 藤 矩 郎	JCS	〒 455-0013 名古屋市港区港陽 3-19-3 052-654-0487
セントラルスポーツダイビング協会 代表 市 原 隆 久	DACS	〒 104-0033 中央区新川 1-5-17 新川 Mビル 03-5543-1812
尾道海技学院 代表 元 廣 孝 志	MTES D.D.	〒 722-0025 広島県尾道市栗原東 2-18-43 0848-37-8111
CMAS = JEFF 会長 後 藤 勝 之	JEFF	〒 220-0023 横浜市西区平沼 1-33-19 045-324-5863 第3ヘルデ横浜 1106
日本YMCA同盟 代表 井 口 延	YMCA	〒 160-0003 新宿区本塩町7 03-5367-6640
関西潜水連盟 代表 村 上 忠 一	KD JAPAN	〒 653-0824 兵庫県神戸市長田区池田上町 85-15 078-691-5780
日本ダイビングスポーツクラブ協会 代表 小 林 武 義	JUSCA	〒 390-0824 長野県松本市並柳 3-13-5 0263-25-9199 スポーツスクエアサム 2 内
スクーバ・ダイビング・カレッジ 代表 関 谷 宗 治	SDC	〒 231-0861 横浜市中区元町 2-80 045-641-3294
日本スクーバ・ダイビング連盟 代表 相 沢 秀 光	JAPAN NASA	〒 135-0016 江東区東陽 2-2-20 03-3615-5566 YMCA 東陽町センター内

【潜水指導者養成学校および潜水教育機関】

学校名 / 代表者	住所 / 電話番号	
日本海洋技術専門学校 代表 酒 井 義 孝	〒722-0025	広島県尾道市栗原東 2-18-43 0848-37-8118
YMCAスポーツ専門学校 代表 熊 谷 孝 一	〒244-0816	横浜市戸塚区上倉田町 769-24 045-864-4990
東京リゾート&スポーツ専門学校 ダイビング指導担当 松 本 昌 善	〒171-0022	東京都豊島区南池袋 2-31-2 03-5391-3386
神戸YMCA学院専門学校 代表 水 野 雄 二	〒650-0001	兵庫県神戸市中央区加納町 2-7-15 078-241-7203
日本ウェルネススポーツ専門学校 理事長 柴 岡 三 千 夫	〒179-0071	東京都練馬区旭町 3-23-22 03-3938-2372
全国水産・海洋高等学校 潜水技術検定委員会 代表 宮 木 則 之	〒311-1214	茨城県ひたちなか市和田町 3-1-26 0292-62-2525 茨城県立海洋高校内

その他の注意事項

- (1) 受講料は前納制になっておりますので、受講者決定通知書が届きましたら指定の銀行振込口座へご送金下さい。なお、受講申込時に現金等を持参または郵送しないよう、ご注意ください。
- (2) 開講式は講習会の初日午前 1 0 時 3 0 分から行い、続いてオリエンテーションを行います。
- (3) 朝 8 時 3 0 分頃から夜 9 時近くまで集中的に講義を行いますので、出来る限り宿泊施設をご利用ください。
多摩スポーツセンター (東京都多摩市東寺方)
(料金等の詳細は別紙を参照ください。)
- (4) 駐車場は狭いので、できるだけ電車等をご利用下さい。
- (5) 持参するもの
筆記用具
トレーニングウェア、シューズ等、受講しやすい服装
水着、スイムキャップ、ゴーグル
マスク、スノーケル、フィン、ウエットスーツの 4 点セット
健康保険証等
- (6) 受講案内に関し、不明な点や疑義がある場合は (財) 社会スポーツセンター事務局に照合して下さい。

————— 受講・受験申込および問い合わせ先 —————

財団法人 社会スポーツセンター

スクーバ・ダイビング指導者審査事業実行委員会事務局

〒 2 0 6 - 0 0 0 3

東京都多摩市東寺方 6 4 7

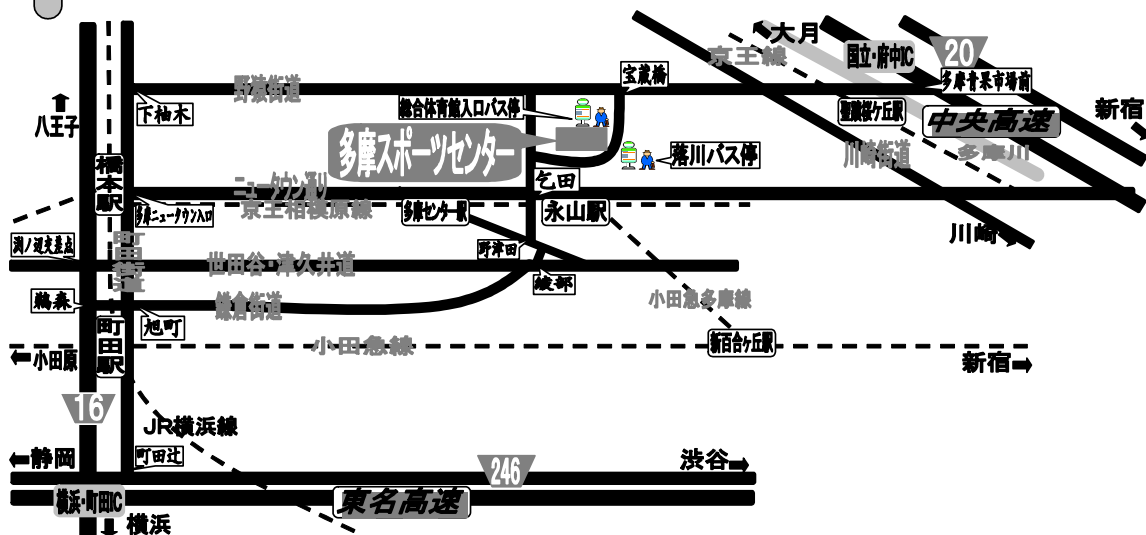
T E L : 0 4 2 - 3 7 5 - 1 6 3 0

F A X : 0 4 2 - 3 7 5 - 3 3 7 4

E - mail : sscinfo@shakai-sc.or.jp URL: <http://www.shakai-sc.or.jp/>

御連絡先 042-375-3371
東京都多摩市東寺方647

御連絡先 042-375-3371
東京都多摩市東寺方647



当館周辺拡大図



電車・バスでお越しの方

京王線聖蹟桜ヶ丘駅下車 京王バス9番乗り場より「多摩南部地域病院行き」に乗車
落川バス停下車徒歩1分

京王線・小田急多摩センター駅下車 京王バス5番乗り場より「聖蹟桜ヶ丘行き」に乗車
総合体育館入口バス停下車徒歩1分

お車でお越しの方

東名高速横浜・町田ICより 国道16号・鎌倉街道經由 所要時間約50分
町田街道・鎌倉街道經由 所要時間約40分

中央高速国立・府中ICより 野猿街道経由 所要時間約15分

当センター駐車スペースに限りがございます。なるべく電車・バスを御利用下さい。

[MEMO]